

2023 12

# ナイル

## 現代短歌ナイル

### 【今月の歌】

荒牧建二、高橋欣宏  
河内圭子、松本豊子

\*\*\*

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

\*\*\*

10月号作品批評／宮本史一(心の花)

\*\*\*

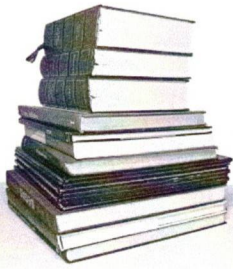
「ていうか症候群」／二方久文

\*\*\*

「洗濯船 2050」／濱谷美代子

\*\*\*

現代文 知識ノート 【2】



# NILE CAMPUS

294

伯梅閑話 —— 夢枕など ——

小村井敏子（五代目神田伯梅）

こんなことを書くと、信じていただけない向きも多いことだろう。そう思っただけで言っただけで、見たのは事実なので書いておこうと思う。伯龍の妻、千代夫人が亡くなったあと、ピンチヒッター敏子が伯龍にゲットされた。そのときの夢。千代夫人の鏡台の前、鏡台に向って右側に千代夫人、左側に敏子がいた。声は聞こえなかったが、事務引継ぎに違いないと感じた。夢に千代夫人が出てくださったことを伯龍に言うと、自分の夢には出ないと言う。そう言ったら、夢に出てくださったそうで、伯龍は喜んでいて、亡き妻の誕生日は五月だ。

「今日は、（千代の）誕生日だから墓参りに行きたい」と、伯龍が言った。が、その時は、東京の大森に住んでいたので墓参りには行かなかった。のちに、あのときそう言っただけで伯龍に言ったが覚えていなかった。

その後、鎌倉市に転居した。伯龍のお客様の持ち家で、借りてほしいと言われたのだ。その家が今住んでいる家だ。その家の場所は、千代夫人のお墓の徒歩圏だった。「二人を東京においてはいけけない。私のそばに来なさい」ということだと思った。

転居して半年ほど経って、伯龍が「月参りをしたい」と言うので、月命日とは決めず、一月から十二月まで月一回、墓参りをした。すると、大家が、貸している家を買ってくれと言いついた。バブルのはじける前の高いときに買って、ローンが負担だったに違いない。海外から帰国する両親のために買った家だったが親はここに住まなかったのだ。

八代目貞山の娘さんが貞鏡となる前年に、六代目伯龍は逝った。善意の魂で、この孫に伯龍を継がせたいなどと言っていたので、喜んで、貞鏡さんの立場を考えない行動に出る恐れ大。孫の邪魔をしないようにこちらへ来なさいと、千代夫人が迎えに来たのだと思った。伯龍千代が仲のよい夫婦だったのは、よく知っていた私だった。